

第1回 大阪・関西万博きょうと推進委員会 次第

日時：令和5年5月29日（月）
午後4時00分～5時30分
場所：ウェスティン都ホテル京都
西館3階「コスモスホール」

1 開 会

2 議 事

- （1）きょうと推進委員会の体制について
- （2）基本構想（案）について
- （3）アクションプランについて
- （4）報告事項
 - ・若手部会（仮称）について
 - ・認証制度の実施について
- （5）その他

3 閉 会

<配付資料>

大阪・関西万博きょうと推進委員会の体制
大阪・関西万博きょうと推進委員会 会則（案）
大阪・関西万博きょうと基本構想（案）
アクションプランとその構成について
主な取組例
若手部会（仮称）の構成イメージ・発足メンバー
大阪・関西万博きょうと推進委員会 認証制度（イメージ）

大阪・関西万博きょうと推進委員会〈令和5年度〉

総会

- 役割：**基本構想の策定、アクションプランの作成・改訂**及び事業の進捗確認、**プレイベントの実施** 等
- メンバー：**各団体の長**（座長：総合地球環境学研究所 所長 山極壽一） ※下線は共同代表
 - ・**行政・政治**（京都府知事、京都市長、京都府市長会長、京都府町村会長）
 - ・**経済界**（京都商工会議所、京都経営者協会、京都経済同友会、京都工業会、京都府商工会連合会、京都府中小企業団体中央会の会頭等）
 - ・**関係団体**（知恵産業創造の森、京都文化交流コンベンションビューロー、関西文化学術研究都市推進機構、京都府観光連盟、京都市観光協会の会長等）
 - ・**有識者**（池坊専好、ウスビ・サコ、千宗室、山極壽一、小川さやか、山地憲治、橋爪紳也、平尾一之） ※敬称略

企画・提案

助言・承認

報告

若手部会（仮称）

- ・構想に合致する事業を**企画・実行**する若手チーム代表者等で構成（万博推進への若手等意見の反映・企画実現サポート、異分野との交流等による次世代を担う人づくり 等）
- ・事業内容は、主に万博会場における展示・催事、府域での取組の一部、情報発信を想定
- ・委員及び関係団体等からの推薦者もプロデューサー等として参画、推進委員会事務局と連携して各若手チームの意見のとりまとめや全体の進捗管理を行う

幹事会

- ・各団体（有識者除く）の部局長級の職員で構成
- ・予算・決算、事業計画等、推進委員会の**運営**に関する事項を中心に審議

運営

事務局運営会議

- ・京都府、京都市、知恵産業創造の森、京都文化交流コンベンションビューローで構成する共同事務局の運営会議
 - ・総会等の進め方、アクションプランの充実に係る検討、事業実施にあたっての事務的調整を行う
- ※議題に応じて関係団体に出席を依頼

大阪・関西万博きょうと推進委員会 会則（案）

（名称）

第1条 この会は、大阪・関西万博きょうと推進委員会（以下「推進委員会」という）と称する。

（目的）

第2条 推進委員会は、2025年の大阪・関西万博を契機に、最先端の科学技術や研究開発などの京都産業の強みや、府内各地の文化や観光資源などの魅力を国内外に広くアピールし、交流促進によって京都の発展に着実につなげるため、具体的な取組の検討や推進をオール京都で行うことを目的とする。

（事業）

第3条 推進委員会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- （1）大阪・関西万博きょうと基本構想の策定及び改定に関すること
- （2）府域や万博会場における取組（アクションプラン）の検討及び推進に関すること
- （3）その他委員会の目的を達成するために必要な事業

（構成）

第4条 推進委員会は、別表1の委員をもって構成する。

- 2 委員の任期は、選任の日から推進委員会の目的が達成され解散するまでとする。ただし、委員が就任時におけるそれぞれの所属機関又は団体等の役職を離れた場合は、その委員は辞任したものとみなし、その後任者が前任者の残任期間を務めるものとする。

（役員）

第5条 推進委員会に、共同代表を5名置く。

- 2 推進委員会の代表は共同代表とし、京都府知事、京都市長、京都商工会議所 会頭、一般社団法人京都知恵産業創造の森 理事長、公益財団法人京都文化交流コンベンションビューロー 代表理事をもって充てる。
- 3 共同代表は、第2条の目的の達成に向けて、事業の進捗管理を行う。
- 4 役員の任期は、選任の日から推進委員会の目的が達成され解散するまでとする。ただし、委員が就任時におけるそれぞれの所属機関又は団体等の役職を離れた場合は、その委員は辞任したものとみなし、その後任者が前任者の残任期間を務めるものとする。

（総会）

第6条 総会は、全ての委員をもって構成する。

- 2 総会は、共同代表が招集する。
- 3 総会は、次の事項について審議し、決定する。
 - （1）基本構想の策定及び改定に関すること
 - （2）その他、第2条の目的を達成するために必要な事項に関すること
- 4 総会には座長を置き、座長は総会の議事の進行を行う。
- 5 座長は、委員の互選により選任する。
- 6 座長に事故がある時は、あらかじめ座長が指名する委員がその職務を代理する。
- 7 総会は、委員の過半数の出席または委任状の提出をもって成立することとする。
- 8 総会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、座長の決するところによることとする。

- 9 総会は、必要に応じて委員以外の者を出席させることができる。
- 10 総会の議事は原則として公開とし、傍聴席に相応する人数を傍聴させることができる。ただし、特段の理由があると座長が認めた場合には、理由を明示し、会議の全部又は一部を非公開とすることができる。

(幹事会)

第7条 総会の下に幹事会を置く。

- 2 幹事会は、別表2の幹事をもって構成する。
- 3 幹事長は、京都府 総合政策環境部長をもって充てる。
- 4 副幹事長は、幹事長を補佐する。
- 5 副幹事長は、京都市 産業・文化融合戦略監（産業観光局長）、一般社団法人京都知恵産業創造の森 専務理事、公益財団法人京都文化交流コンベンションビューロー 専務理事をもって充てる。
- 6 監事は、推進委員会の財務を監督する。
- 7 監事は、京都府商工会連合会 事務局長及び公益社団法人京都工業会 理事・事務局長をもって充てる。
- 8 幹事会は、幹事長が招集する。
- 9 幹事会は、次の事項について審議し、決定する。
- (1) 事業計画、予算及び決算に関すること
- (2) その他、推進委員会の運営に関すること

(事務局)

第8条 推進委員会の事務局は共同事務局とし、京都府 総合政策環境部 総合政策室、京都市 産業観光局 産業企画室、一般社団法人京都知恵産業創造の森 事務局、公益財団法人京都文化交流コンベンションビューロー 事務局内に置く。

- 2 事務局長は、京都府 総合政策環境部 総合政策室長をもって充てる。
- 3 事務局は、第2条の目的を達成するための事業に関する必要な事務を処理する。

(部会)

第9条 推進委員会に必要に応じて部会を置く。

- 2 部会の構成及び運営に関することは別に定める。

(事務局運営会議)

第10条 推進委員会の円滑な運営を図るため、事務局運営会議を置き、同会議は、事務局長が委員所属団体のうちから審議内容に応じて出席者を招集し、議長となり次の事項を審議、決定する。

- (1) 総会の議題に関すること
- (2) その他、推進委員会の運営に関すること

(経費)

第11条 推進委員会の経費は、補助金、負担金、寄附金その他の収入をもって充てる。

(会計年度等)

第12条 推進委員会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。ただし、委員会設立初年度は、設立の日からその日以降最初に到達する3月31日までとする。

(解散)

第13条 推進委員会は、総会の議決を経て解散する。

2 推進委員会が解散するときに有する残余財産は、総会の議決を経て処分する。

(その他)

第14条 この会則に定めるもののほか、推進委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この会則は、令和5年5月〇日から施行する。

大阪・関西万博きょうと推進委員会 委員名簿(案)

氏 名	役職	備考
いけのぼう せんこう 池坊 専好	華道家元池坊 次期家元	
ウスビ・サコ	京都精華大学 前学長	
うちだ たかし 内田 隆	一般社団法人京都経済同友会 代表幹事	
おがわ さやか 小川 さやか	立命館大学大学院先端総合学術研究科 教授	
おきた やすひこ 沖田 康彦	京都府商工会連合会 会長	
かどがわ だいさく 門川 大作	京都市 市長	共同代表
さかきだ たかゆき 榊田 隆之	一般社団法人京都経済同友会 代表幹事	
さかぐち ゆうじ 阪口 雄次	京都府中小企業団体中央会 会長	
しおみ あきお 汐見 明男	京都府町村会 会長	
せん そうしつ 千 宗室	茶道裏千家 家元	
たなか せいじ 田中 誠二	公益社団法人京都府観光連盟 会長 公益社団法人京都市観光協会 会長	
つかもと よしかた 塚本 能交	京都商工会議所 会頭 一般社団法人京都知恵産業創造の森 理事長	共同代表
にしわき たかとし 西脇 隆俊	京都府 知事	共同代表
はしづめ しんや 橋爪 紳也	大阪公立大学研究推進機構 特別教授	
ひらお かずゆき 平尾 一之	京都市成長産業創造センター センター長	
ほりぐち ふみあき 堀口 文昭	京都府市長会 会長	
ほりば あつし 堀場 厚	公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構 理事長	
まえかわ しげのぶ 前川 重信	一般社団法人京都経営者協会 会長	
むらお おきむ 村尾 修	公益社団法人京都工業会 会長	
むらた じゅんいち 村田 純一	公益財団法人京都文化交流コンベンションビューロー 理事長	共同代表
やまぎわ じゅいち 山極 壽一	総合地球環境学研究所 所長	
やまじ けんじ 山地 憲治	公益財団法人地球環境産業技術研究機構 理事長	

【オブザーバー】

いぶき ひであき 伊吹 英明	近畿経済産業局長	
ひなた のぶかず 日向 信和	文化庁 大臣官房審議官	

(五十音順・敬称略)

大阪・関西万博きょうと推進委員会幹事会 幹事名簿（案）

氏 名	役職	備考
いけだ しずお 池田 静雄	京都府商工会連合会 専務理事	
いしだ ひろや 石田 洋也	京都市 産業・文化融合戦略監（産業観光局長）	副幹事長
うえだ きよかず 上田 清和	一般社団法人京都経営者協会 専務理事	
おかもと こうき 岡本 孝樹	京都府 総合政策環境部長	幹事長
おくい たくじ 奥井 拓史	公益社団法人京都市観光協会 専務理事	
かわい ともあき 河合 智明	公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構 常務理事事務局長	
こじま ひろなお 児島 宏尚	京都商工会議所 専務理事	
こやま てつじ 小山 哲史	京都府中小企業団体中央会 専務理事	
しもつま たけし 下間 健之	一般社団法人京都経済同友会 理事事務局長	
てらい ただし 寺井 正	京都府市長会 事務局長	
にしかわ さだひこ 西川 定彦	京都府町村会 事務局長	
むらかみ けいこ 村上 圭子	公益財団法人京都文化交流コンベンションビュー ロー 専務理事	副幹事長
もとなが はるひこ 本永 治彦	公益社団法人京都工業会 専務理事	
やました てつろう 山下 徹朗	一般社団法人京都知恵産業創造の森 専務理事	副幹事長
よつつじ きよみ 四辻 清美	公益社団法人京都府観光連盟 専務理事	

【監 事】

あだち まこと 足立 誠	京都府商工会連合会 事務局長
かない すすむ 金井 進	公益社団法人京都工業会 理事・事務局長

（五十音順・敬称略）

大阪・関西万博 きょうと基本構想 (案)

令和5年●月●日
大阪・関西万博きょうと推進委員会

はじめに

1970年の「大阪万博」は、「人類の進歩と調和」をテーマに、77カ国の参加のもと、6,400万人が来場し、その幕を閉じた。

それから50年の間、我が国は、関西国際空港、山陽新幹線、明石海峡大橋等のインフラ整備や、インターネット等の情報通信技術の発展等により、人と人との時間的・心理的距離は大幅に縮まり、生活は劇的に便利になった。

一方で、高度経済成長が終わりを告げ、度重なる経済的危機に直面し、自然災害の頻発、新型コロナウイルス感染症拡大による健康への不安の高まり、少子高齢化・人口減少や、それに伴う地域コミュニティの希薄化、働き手不足も深刻化している。

世界に目を向ければ、東西冷戦の終結や、BRICs等新興国の台頭など、国際情勢は大きく変容し、人口の急激な増加は、食料問題や環境問題を一層深刻化させた。また、グローバル化の進展は、国と国との距離を縮めたが、戦争や感染症の拡大等による影響が、すぐさま世界中に波及するようになった。こうした課題に直面する中、持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標としてSDGs（持続可能な開発目標）が設定され、国際的な協力の輪が広まってきている。

このように時代が目まぐるしく変化する中、2025年に「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマで、再び関西において万博が開催される。

「大阪・関西万博」は、地域経済を活性化する起爆剤であり、また豊かな文化発信のチャンスである。この機会に、日本の博覧会発祥の地であり、SDGs先進地でもある京都はどのように向き合い、何を未来に残していくべきなのか、この「大阪・関西万博きょうと基本構想」にまとめた。

本構想のもと、京都の持つ力を総結集し、京都の未来、そして世界の未来を切り拓いていく。

目次

- 1. 万博を通じて京都が目指すもの …p.4
- 2. 全体テーマ …p.5
- 3. 府域内の取組の方向性と考え方 …p.6~p.7
- 4. 万博会場に対する基本的な考え方 …p.8
- 5. 万博会場等における催事の考え方 …p.9~p.10
- 6. 全体スケジュール …p.11

1. 万博を通じて京都が目指すもの

＜京都が培ってきたまちの姿＞

京都は、平安時代より、人や自然など様々な「いのち」を大事にし、共生する中で、奥深い文化を育んできた。また、そうした中で、伝統を守りつつ「遊び心」を取り入れながら革新を重ね、新たなものを常に創り出してきた。

現代においても、個性や特色のあるまちや山紫水明の豊かな自然を有するとともに、千年を超えて受け継がれてきた文化が生活の至る所に根付いており、この豊かな自然や文化を基盤として、食、産業、教育、観光などが、他に類を見ない発展を遂げてきている。

また、これに魅せられ、学生をはじめ国内外から多様な人々が集い、若い力に溢れ、人や地域、企業、大学、行政などの距離感が近い。

＜万博を通じて京都が目指すもの＞

このような京都が持つ強みや特徴は、万博全体のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」やコンセプト「未来社会の実験場」との親和性が非常に高い。

このため、大阪・関西万博を通じて、京都は、「**環境**」と調和しながら府内各地で育んできた奥深い「**文化**」、伝統から最先端まで多様な業種があり、質の高い技術や研究開発を有する「**産業**」、府内各地に様々な資源を有する「**観光**」などの魅力を世界へアピールし、人や投資を呼び込むことで、**京都府全域のさらなる活性化**につなげる。

また、万博を契機として、様々な人、企業、文化の「**新たなつながり**」を創り、「**伝統**」と「**革新**」を融合させながら、**未来の京都を担う人や企業、文化**をつくっていく。

2. 全体テーマ

一緒につくろう、京都の未来 ～伝統と革新で拓く～

Come Together, Create the Future

～ Leading with Tradition and Innovation ～

～ テーマに込めた思い ～

先人たちが作り上げ、受け継いできた京都のまちを、現代を生きる我々も未来へと繋いでいかなければならない。

そのため、京都が培ってきた強みや特徴を生かし、国内外からの万博の来場者に府内各地に来ていただくことで、京都府民との「つながり」や「共感」を創り、一体となって、京都の未来、そして世界の未来を切り拓いていく。

3. 取組の方向性と考え方

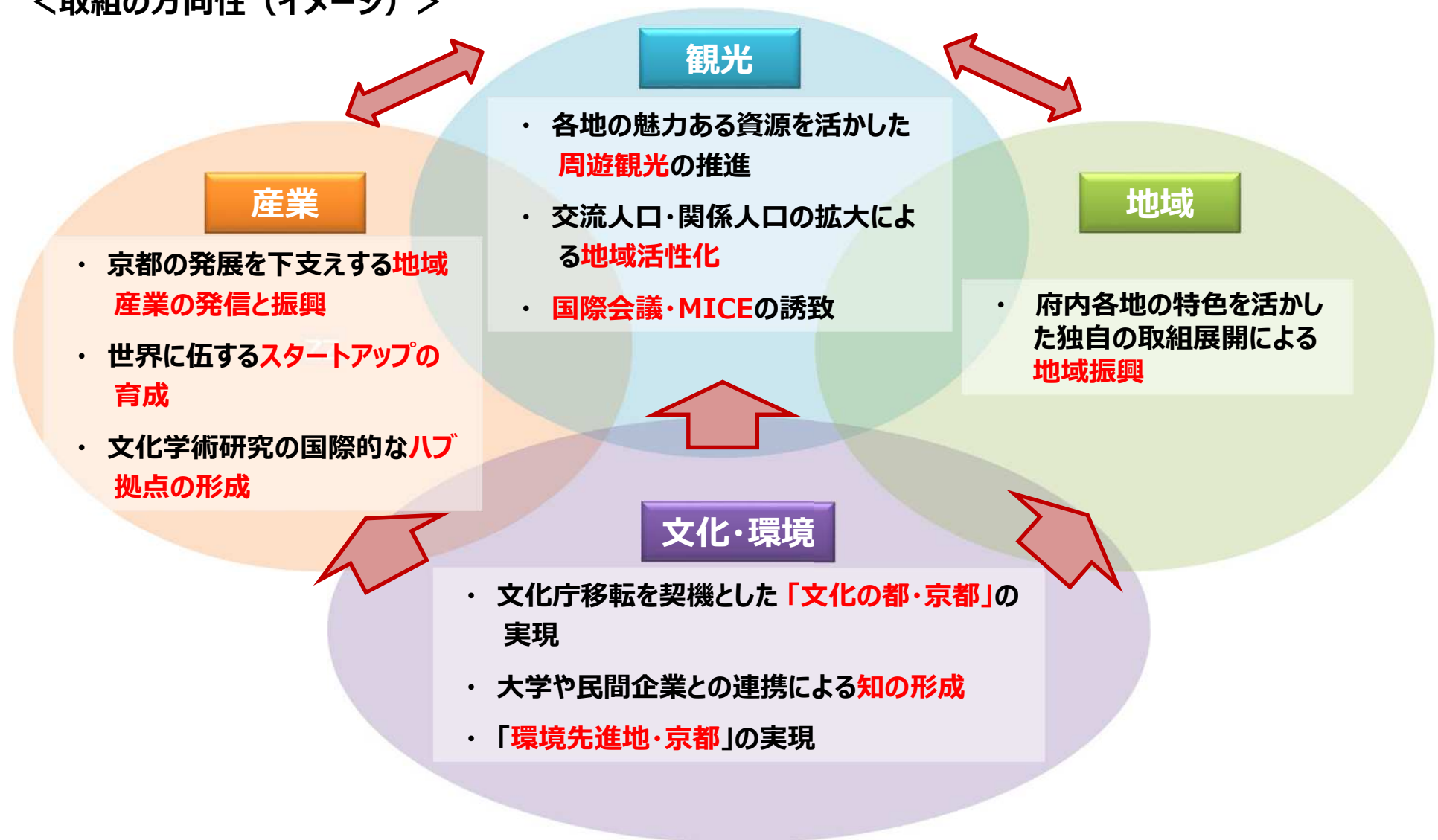
- 古来より人や自然など様々な「いのち」との調和を図ってきた「**文化・環境**」、文化を土台にして発展してきた「**産業**」と「**観光**」、そして「**地域**」の4分野が密接に連携・融合した取組を実施。
- 府内各地に人や投資を呼び込むことで、京都府全域の活性化に繋げるとともに、人と人、企業と企業、文化と文化などの「新たなつながり」を創り、未来の京都を担う人や企業、文化を育てていく。

＜取組の考え方＞

- 「**文化・環境**」分野においては、西陣織、京友禅などの伝統産業、茶の湯や華道、食文化など、多様かつ奥深い文化を育み、自然との調和を図ってきた京都ならではの取組を進める。
- 「**産業**」分野においては、伝統産業から先端産業まで様々な産業が集積する京都の強み、そして日本の産業発展を支えてきた京都のものづくり産業の底力を生かした取組を進める。
- 「**観光**」分野においては、京都が培ってきた「文化・環境」や「産業」を生かし、京都府各地に人を呼び込み、交流と連携を生み出す取組を進める。
- 「**地域**」分野においては、府内全域で地域の特色を活かした独自の取組を積極的に展開し、地域経済の活性化、参加諸外国との交流など、**地域振興**をはかる。
- なお、これらの取組は便宜的に分類しているものであり、実際は各分野が密接に連携しながら、取組を進めていくことになる。

3. 取組の方向性と考え方

<取組の方向性（イメージ）>



☆ オール京都体制にて、万博期間前・期間中の取組について、ポータルサイトの作成等による一元的な情報発信や、機運醸成・誘客促進のためのイベントを実施。

4. 万博会場に対する基本的な考え方

万博会場の位置付け

万博会場において、京都の文化や京都産業の強み、観光資源等をアピールし、京都府域内の各地へ人を呼び込む「**ゲートウェイ**」として位置付け。

京都ブースの展示のあり方

- **未来の京都を担う若い世代を中心に、府民や府内企業等の活力や想像力を最大限活用するとともに、「人」や「人のつながり」を未来に残すため、推進委員会の若手部会（仮称）が中心となり企画。公募等を含め幅広く出展・運営方法を検討**
- 本構想の「『万博を通じて京都が目指すもの』や『全体テーマ』と軌を一にし、「文化・環境」、「産業」、「観光」、「地域」の**4つをテーマとして、一定期間での入替**も視野に入れた企画などを想定



5. 万博会場等における催事の考え方

1. 京都が出展可能な催事場について

① 関西パビリオン内の催事スペース

⇒ 関西広域連合により、パビリオン出展 9 府県に割り当ての予定

② その他、会場内の催事場

⇒ 令和 5 年度内に自治体枠（1 団体1枠予定）
の先行募集開始（一般参加枠は令和 5 年夏頃）



博覧会協会提供のスケジュール	
2023年2月末	自治体向け説明会
2023年3月末	意向ヒアリング
2023年6月	企画案（概要）提出締切
2023年8月	仮内定
2023年10月	企画書提出締切
2024年1月	実施決定
2025年会期中	大阪・関西万博で実施

2. 催事に対するオール京都での対応方針

① 関西パビリオン内の催事スペース

⇒ **未来の京都を担う若い世代を中心に、府民や府内企業等の活力や想像力を最大限活用**するとともに、「人」や「人のつながり」を**未来に残す**ため、推進委員会の**若手部会（仮称）**が中心となり企画。**公募等を含め幅広く**出展・運営方法を検討

② その他、会場内の催事場

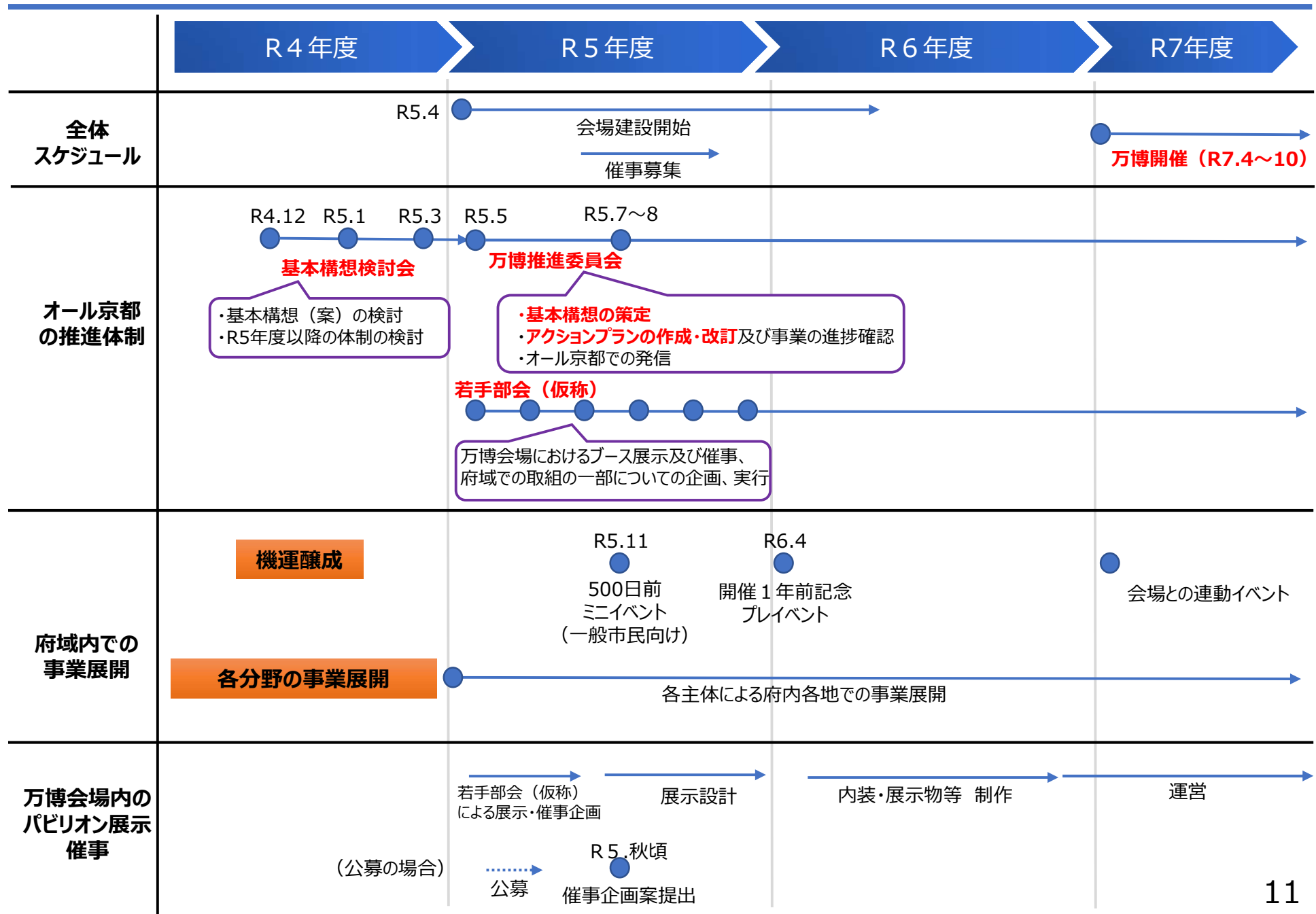
⇒ 催事場の規模、博覧会協会が発表予定のテーマウィークの内容、出展枠確保の手法等を踏まえ、幅広く出展・運営方法を検討

(参考) その他、会場内の催事場



6. 全体スケジュール

※令和5年度以降の内容は、あくまでも予定



アクションプランとその構成について

1 基本的な考え方

- ・「大阪・関西万博きょうと基本構想」を踏まえ、構想を具体化する「大阪・関西万博きょうとアクションプラン」を作成。
- ・アクションプランは、事業の進捗状況や新規事業の検討も踏まえながら、定期的に改訂を行っていく。

2 アクションプランの構成（案）

- （1）大阪・関西万博きょうと推進委員会が実施する取組
（例）500日前イベント等の開催、旅マエ向けプロモーションとしてのウェブサイト構築やSNS発信等
- （2）大阪・関西万博きょうと推進委員会参加団体が実施する取組
- （3）その他基本構想に賛同する企業や団体が実施する取組

3 検討の進め方（案）

- （1）第1回推進委員会（令和5年5月29日（月））
アクションプランの作成と構成のイメージの共有
- （2）第2回推進委員会（令和5年7～8月（予定））
 - ・推進委員会が実施する取組について、アクションプランへの反映に向けて議論
 - ・推進委員会に参加する団体の取組のアクションプランへの反映

令和5年5月29日時点案

大阪・関西万博 きょうとアクションプラン (案)

令和5年●月●日
大阪・関西万博きょうと推進委員会

1 アクションプランについて

- 「大阪・関西万博きょうと基本構想」を踏まえ、構想を具体化する「大阪・関西万博きょうとアクションプラン」を作成。
- アクションプランは、事業の進捗状況や新規事業の検討も踏まえながら、定期的に改訂を行っていく。

2 アクションプランの構成（イメージ）

- （１）大阪・関西万博きょうと推進委員会が実施する取組
（例）500日前イベント等の開催、旅マエ向けプロモーションとしてのウェブサイト構築
やSNS発信等
- （２）大阪・関西万博きょうと推進委員会参加団体が実施
する取組
- （３）その他基本構想に賛同する企業や団体が実施する取組

以下、(1)～(3)の取組を掲載

主な取組例

(注)あくまでも現時点でのアイデア段階のもの。

“安土桃山時代の万博”大茶湯の復活「きょうと大茶湯」

【目指す姿】

日本茶の歴史のはじまりを再認識し、茶に親しむ府民が拡大するとともに、時代の天下人に引き立てられながら育まれた茶文化を世界にアピールする京都

概要

天正15（1587）年10月1日に秀吉により開かれた「大茶湯（おおちやのゆ）」を再現。誰でも参加できる茶会を開催。

- ・ 全国から茶人を招聘
- ・ 子供を対象とした茶席や多言語に対応した外国人向けの茶席を設置
- ・ 和菓子業界とのコラボによりオリジナル茶菓子を提供

実施場所 府内各地



万博後の取組

万博後も京都で開催された歴史上の茶会の復活やオリジナル茶菓子の開発・提供などを継続的に実施していく。

世界の食文化の交流をリード「和食と世界の食サミット」

【目指す姿】

ユネスコ無形文化遺産「和食」の発信と世界の食文化の交流の拠点となる京都

概要

京都と万博参加国の人々が食文化による交流を体験するサミットを開催

- ・ 世界の食文化をリードする各国の料理人による料理の競演
- ・ 万博参加国が参加する「和食と世界の食文化フォーラム」の連続開催
- ・ 日本と万博参加国の子供が、一緒にお互いの国の食文化を学ぶワークショップの開催
- ・ 府内各地で、市町村と姉妹都市等が双方の地域の食文化や素材を活用し、名物料理を開発・提供

実施場所 府内各地



万博後の取組

他の都道府県にも参加を呼びかけ、食文化による国際交流を京都からリードしていく。

文化と経済の好循環の創出

【目指す姿】

「文化と経済の融合による好循環」が創出される京都

概要

【アート市場活性化の取組の推進】

これまでのアート市場活性化の取組（アートフェア、アート作品のオンライン販売、リアル展開）に加え、大阪・関西万博に向け、オール京都による「アートフェア」の開催に向け検討

- 国内外のアート関係者による市内でのアートイベントの開催等を誘引するため、主要なアートフェア等のスケジュールや個性的な会場を掲載した冊子・ウェブページ（日英併記）を制作し、配布・発信
- 京都の強みである美術工芸を発信するため、国内外のアート関係者向けにアトリエ・工房等を訪れるビジットツアーを実施

【アート×ビジネス事業の推進】

- 芸術文化振興の拠点の一部をオフィス等として企業へ貸出しアーティスト等の芸術関係者と企業等との交流会、サロンなどを定期的を開催し、多様な人が交流する機会を創出
- ビジネスパーソン向けアート講座や、アーティスト向けビジネス講座といった、お互いのことを学ぶことができるセミナー、ワークショップの開催

【カルチャープレナーの創造活動の促進】

- カルチャープレナーの実践事例をリサーチし、実態を把握するためのラウンドテーブル・交流会等を実施する。また、分野や地域など異なる背景を持つ人々との出会いを創出するワークショップ等を実施。
- 京都の事例に加え、国内外の先進事例をリサーチする。そのうえで、コンセプトを設計し、海外も視野に入れたカルチャープレナーに関するアワード等を開催。

実施場所 京都市内

万博後の取組

大阪・関西万博終了後も、期間中各事業の成果を踏まえ、取組を推進することで、文化芸術全体の価値を高め、芸術家や文化関係者の活動基盤の充実や活発な創作活動を創出するとともに、市民生活の豊かさ、文化の継承・創造につなげていく。



過去の殿堂入り者が一堂に会する「KYOTO地球環境の殿堂・世界会議」

【目指す姿】

環境団体や大学、産業界など、多様な主体とのパートナーシップを生かし、
脱炭素で持続可能な社会の実現をリードする環境先進地・京都

概要

- ・ 京都議定書誕生の地・京都において、同議定書発効20周年、パリ協定締結10周年となる2025年に、創設15年の節目となる『KYOTO地球環境の殿堂』の過去の殿堂入り者が一堂に会し、2050年カーボンニュートラル実現に向けた課題について議論する「KYOTO地球環境の殿堂・世界会議」を実施
- ・ 併せて、環境課題の解決につながる技術を持つ国内外の大企業やスタートアップの取組を発信、交流し、誘致を促す「ZET-summit」を同時開催

実施場所 京都国立国際会館 他



万博後の取組

- ・ 万博後も、環境問題に一丸となって取り組むべき行動を京都から世界に向けて発信する『KYOTO地球環境の殿堂』を国内外の企業とも連携して継続
- ・ 脱炭素関連のスタートアップ企業が集積する「ZET-valley構想」や先端技術等を活用した次世代型ゼロカーボン地域の創設に向けた取組を推進

京都発脱炭素ライフスタイル推進事業

【目指す姿】

京都の自然と共生する文化やしまつのことを礎に自分らしい持続可能な暮らしの選択で実現するカーボンニュートラルで豊かな社会

概要

将来の京都を担う若者を中心に、事業者及び学識者と共に、一人ひとりの住民が自分らしい脱炭素型のライフスタイルに転換していくための仕組みを作るチームでは、京都が培ってきたサステナブルな理念に基づき、新しいライフスタイルの実践に繋がるプロジェクトを企業と連携して創出・実証している。万博期間中に来訪者がプロジェクトに参加することで、理念や取組を国内外に発信。

(プロジェクトの取組例 ※全ての取組が実施可能かは未定)

- ・ 京都ならではの脱炭素な取組を集約し、参加することでライフスタイルの転換にもつながるツアーコンテンツを提供（京都脱炭素ツーリズムのHUB創設プロジェクト）
- ・ 市内企業の環境配慮商品・サービスのCO2削減効果や持続可能なものづくりのストーリーを発信（環境負荷の見える化プロジェクト）
- ・ インバウンドの需要が高く、環境負荷の低い菜食対応メニューを提供する飲食店等の情報発信（菜食対応のメニューを提供する店舗の見える化プロジェクト）
- ・ ファッションロスゼロを切り口に、古着を中心に様々な物の資源循環を体験できるイベント「循環フェス」の開催（使用済衣服の回収&循環プロジェクト（RELEASE⇔CATCH））

実施場所 京都市内



万博後の取組

万博後もプロジェクトの取組を推進し、2050年CO2排出量正味ゼロの達成に向けた京都発の脱炭素ライフスタイルを、国内外に広く発信していく。



世界に伍するスタートアップ拠点となる「世界スタートアップ三都物語」

【目指す姿】

社会課題解決を目指す起業家、投資家が世界中から集まり、
社会実装につなげる「世界に伍するスタートアップ拠点」となっている京都

概要

世界からスタートアップ企業や投資家等呼び込むため、商談やピッチ、講演会やセッション等のイベントをスタートアップ・エコシステム「グローバル拠点都市」である京都・神戸・大阪連携して取組む。

- ・ 京都から呼びかけ、三都市合計で 1 万人規模のイベントを開催

実施場所 京都市内



万博後の取組

万博後は、3 都市がより一層連携した取組を深化させていく。

グレーターけいはんな形成に向けた「けいはんな万博」

【目指す姿】

けいはんな学研都市の最先端技術や歴史・文化、グローバルネットワークを生かし
「未来社会」を先導する京都

概要

- ・ 大阪・関西万博や他のサイエンスシティ等との連携を図り、幅広い取組みとするとともに、メタバース等を活用して世界にも情報を発信
- ・ アバターやロボットによる競技や空飛ぶサービスなど、わくわく感のある未来を展示「フードテックエキスポ」や「世界賢人会議」を開催、地球規模の課題解決に取り組む。
- ・ KGAP+の成果を更に拡充し、世界から投資を呼び込むスタートアップピッチ会「けいはんなスタートアップ・ワールド कांग्रेस」を開催
- ・ 立地機関等のオープンハウスやテックツアーを実施するとともに、周辺の歴史文化資源の活用とも合わせて、夢洲からの誘客を促進
- ・ 若手研究者やエンジニア・学生などが交流するコモンズ（共有の場）を提供し、オープンイノベーションを推進

実施場所

けいはんなエリア及び相楽東部



万博後の取組

万博の開催をきっかけとした人や投資を呼び込み、文化学術研究の国際的なハブ拠点を形成するとともに、先進的な未来都市の姿を実現する。

京都の強みを体感できるテクニカルツアー実施

【目指す姿】

- ・海外の投資家やベンチャーキャピタル、政府関係者等が、市内の大学や研究機関、スタートアップ、研究開発型の中小企業等にアクセスできる環境が整備される京都
- ・グローバルな投融資の拡大、海外企業の誘致や京都企業の海外進出が盛んな京都

概要

- ・京都は「伝統」の上に「革新」を重ね、新たな技術を生み出してきた「ものづくりのまち」・「ベンチャーの都」
- ・また、市内に36の大学を有し、世界的な研究者を多く輩出してきた「大学のまち」でもある。
- ・こうした京都の持つ強みを体感してもらい、市内企業等への投融資とグローバルなビジネス展開を拡大することが重要。
- ・そのため、関係機関との連携を図りながら、ライフ・グリーン分野をはじめとするディープテック系のスタートアップやグローバルニッチトップの中小企業、大学・研究機関等に関心がある海外の投資家や政府関係者等を対象とした国際的なPR活動を進める。
- ・その一環として、多くのビジネス関係者が訪れる万博を契機に、ビジネス関連イベントや視察（企業、大学や研究機関、インキュベーション施設等）を組み込んだテクニカルツアーを実施。

実施場所 京都市内

万博後の取組

- ・万博を契機として関係機関間の連携を深め、好事例を創出することで、万博後も継続的に海外へのPR・テクニカルツアーを実施。
- ・スタートアップを含む市内企業等への海外からの資金調達や海外企業との連携・誘致、更には、京都企業の海外進出の充実につなげていく。



伝統を未来につなげる「淀川舟運」

【目指す姿】

淀川舟運の復活を通じて、伝統文化と最先端技術の双方を活用した未来社会の移動手段を体験できる京都

概要

昭和初期頃まで、大阪～京都間の輸送手段として人々の生活に欠かせない輸送手段となっていた淀川舟運を復活させる。

- ・ 沿川地域による淀川舟運活性化協議会及びかわまちづくりネットワークへの参画
- ・ 「かわまちづくり計画」の登録
- ・ 観光コンテンツの充実（水上アクティビティ（Eボート、ナイトクルーズ）、沿川地域まち歩き、インバウンド向けツアーの造成）
- ・ 船舶航行のための航路確保（河道掘削等）、船着場の整備等

実施場所 府内各地



お花見Eボート（八幡市）



まち歩き（宇治市）



三栖閘門ライトアップ
（京都市伏見区）

万博後の取組

船着場や観光コンテンツ、沿川地域のネットワークがレガシーとして残り、関西における周遊観光の新たなコンテンツとして継続的に人を呼び込む流れを作る。

未来へつなぐ観光のカタチ

【目指す姿】

悠久の歴史の中で大切に受け継がれてきた京都の生活文化、サステナビリティの精神を体感できる、文化・観光の多彩な魅力をいかした京都ならではの特別な体験コンテンツを通して、市民の暮らしの豊かさの向上や地域・社会の課題解決、SDGs達成に貢献する持続可能な未来の京都観光を市民、観光客、観光事業者・従事者でつくりあげていく。

概要

市民、観光客、観光事業者・従事者にとっての豊かさや満足度の向上に繋がる京都観光実現のため、以下の視点を取り入れた、京都ならではの特別な観光コンテンツを造成し、京都観光が目指す姿を体感していただく。

- ・ 京都に受け継がれてきた生活文化、伝統産業、先端産業など、伝統と革新を体感する観光
- ・ 環境への配慮（カーボンニュートラル）を重視した観光
- ・ 市民と観光客が交流を楽しむ観光
- ・ 市民が京都の歴史や文化に触れ、京都の魅力を再認識できる機会の創出

コンテンツの実施に当たっては、夏・冬の閑散期対策として実施している誘客キャンペーンにおける万博記念事業をはじめ、早朝・夜間にしか体験できない朝・夜観光、多様なエリアにおける地域の魅力を生かした誘客のプロジェクト等の取組とも連携し、分散観光、宿泊観光を促進する。

実施場所 京都市内

万博後の取組

万博後も、上記の取組を継続し、持続可能な京都観光に資する取組を推進する。



「食の京都」の魅力発信

【目指す姿】

京都の選りすぐりの名店の期間限定メニューを特別価格で提供し、「ほんまもんの京都の料理」を味わってもらうことで、府市協調による食に関する取組「食の京都」を推進し、食の京都の魅力発信や京都のまちの賑わいの創出につなげる。

また、食を通じた地域経済の活性化と好循環（広域観光の推進、京都産食材の生産・流通・販売の拡大や飲食店等における消費拡大など）を図るため、関係団体と連携し、広域的な人と物の交流を促す。

概 要

- ・京都レストランスペシャルの開催
京都産食材を使用した特別メニューの提供等
- ・花街等と連携した京都展（物産展）の開催

実施場所

京都市内各所（レストランスペシャル）、
国内の百貨店（京都展）

万博後の取組

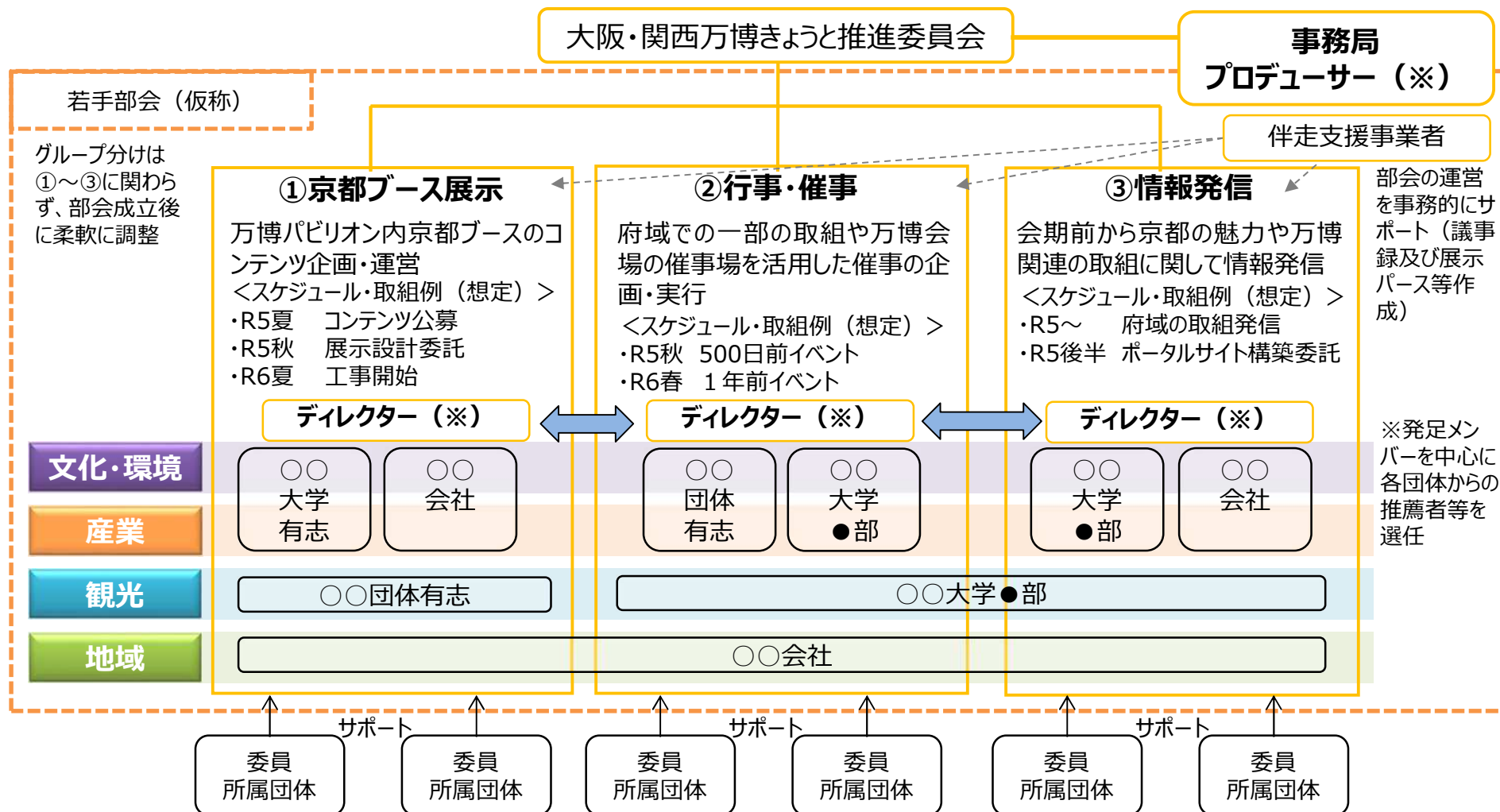
万博後も、京都レストランスペシャルを開催することにより、「食の京都」の魅力発信。



若手部会（仮称）の構成イメージ

(令和5年5月29日現在)

- **目的**：未来の京都の各業界を担う意欲ある若者の人脈づくりと分野を超えたイノベーションの創出、また、万博をきっかけに世界から注目され、将来的に世界で活躍する人材の発掘
- **メンバー**：具体的な企画案を持ち、企画から実行まで中心的な役割を担うことできる業界内の若手や学生
- **人選**：「文化・環境」「産業」「観光」「地域」の4分野から、構成団体からの推薦等により人選
- **構成**：①～③の項目について企画を検討。企画の実現性を高めるためディレクターを置き、議論を整理。伴走支援事業者やディレクターと連携を図りつつ、事務局とプロデューサーで全体の進捗管理を行う



< 若手部会（仮称）発足メンバー >

■ 株式会社アートログ 鈴木 大輔 代表取締役【プロデューサー】



【事業概要】

- ・『Study: 大阪関西国際芸術祭』等アートイベントの開催
- ・アートメディア「ARTLOGUE」の出版 等

【主な略歴】

- ・大阪市立大学都市研究プラザのグローバルCOEに於ける研究プロジェクトを経て起業
- ・2016年ミライノピッチ（ビジネスコンテスト：総務省近畿総合通信局）においてグローバルイノベーションに値するOIH賞を受賞

【主な所属】

- ・（公財）京都高度技術研究所の「京都ビジネスデザインスクール」TA
- ・関西経済連合会、関西経済同友会、全国美術館会議

■ 京都大学大学院地球環境学堂 浅利 美鈴 准教授



【研究テーマ】

- ・ごみ問題、3R（リデュース・リユース・リサイクル）政策、大学等の環境管理、環境教育

【主な略歴】

- ・京都大学 工学部在学中、「京大ゴミ部」を設立
- ・学生とSDGsに関する参加型プロジェクト「エコ〜るど京大」を設立
- ・京都市をフィールドに産学公が連携し、SDGsの社会実装を目指す「京都超SDGsコンソーシアム」の設立

【主な所属】

- ・京都里山SDGsラボ運営協議会 共同代表
- ・（公社）2025年日本国際博覧会協会 持続可能性有識者委員会 委員

■ 株式会社ABAKAM 松本直人 代表取締役



【事業概要】

- ・ スタートアップ向けビジネスモデルのブラッシュアップや仲間づくり、その他経営全般に関するアドバイス
- ・ 大企業向けスタートアップとの協業や（M&A含む）投資に関する企画
- ・ 地域企業が抱える様々な課題を解決するソリューションの開発 等

【主な略歴】

- ・ 政令都市として初となる自治体ファンド「神戸リレーショナルベンチャーファンド」を設立
- ・ フューチャーベンチャーキャピタル株式会社 代表取締役社長

【主な所属】

- ・ 日本スタートアップ支援協会顧問
- ・ 日本ベンチャーキャピタル協会地方創生部会フェロー

■ 福知山公立大学 地域経営学部 杉岡秀紀 准教授



【研究テーマ】

- ・ 公共政策学（地域政策）、地方自治論、NPO論

【主な略歴】

- ・ 第1回「京都学生祭典Kyoto Student Music Award」グランプリ受賞
- ・ 2万人が参加する、同志社京田辺祭（現クローバー祭）初代実行委員長
- ・ 京都府立大学地域連携センター学生部会かごらの設立（顧問）
- ・ 「宮津わかもの会議」、「福知山わかもの会議」の設立（顧問）
- ・ 「高校生みらい会議（京都府北部地域連携都市圏形成推進協議会）」、「中学生みらい会議（綾部市）」コーディネーター

【主な所属】

- ・ 総務省主権者教育アドバイザー
- ・ 厚生労働省地域雇用活性化支援アドバイザー
- ・ 産学連携学会地域連携教育研究会代表、自治体学会企画部会委員

■ 臨済宗妙心寺派本山塔頭 春光院 川上全龍 住職



【活動概要】

- ・国内外の大学、企業、学会やイベントなどにおいて、坐禅と禅哲学やその他の東洋思想や観想法、また様々な文化や宗教や時代における、「自己」の多様性に関する講義やワークショップを行う。

【主な略歴】

- ・米国アリゾナ州立大学・宗教学科卒業
- ・2007年に春光院・副住職に、2022年に同院・住職に就任

【主な所属】

- ・米日財団の日米リーダーシッププログラムフェロー
- ・慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科 KMD 研究員

■ 総合地球環境学研究所 経営推進部 広報室 竹腰麻由 特任専門職員



【活動分野】

- ・環境問題に関する研究についての広報を行う。これまでにメディア・研究者向けに学会での展示会や、一般向けのワークショップを行う。

【主な略歴】

- ・大学院にて有機化学の研究に従事、その後化学メーカー研究員
- ・2018年より日本科学未来館 科学コミュニケーター。市民参加型の実証実験や、プラスチック問題に関するトークイベント、飛沫シミュレーションに関する展示など、社会において科学・技術に関する対話を促進するための多数のイベント・展示を企画、実施。
- ・2023年より現職

大阪・関西万博きょうと推進委員会 認証制度（イメージ）

趣 旨

- ◇ 大阪・関西万博を契機とした新たな取組を認証することで、府内の企業や団体による活動を応援
- ◇ 府内のあらゆる企業や団体による万博に向けた機運醸成の取組や万博会場から府内各地に人を呼び込むための取組を認証
- ◇ 認証した取組を広く発信することで、様々な取組のさらなる創出を図る。

認証スキーム

※詳細については、今後検討

ステップ1
(企業・団体)

事業・活動の申請

ステップ2
(推進委員会・
幹事会・事務局)

申請受理・審査・承認

ステップ3
(事務局)

企業や団体へ認証通知

アクション
プラン



認証した取組はアクション
プラン（仮称）やポータル
サイト等により発信

認証の対象

<認証の対象となる実施主体>

京都府内で活動している（活動予定の）企業や団体

<認証の要件> ※下記をすべて満たすものであること

- ・ 「大阪・関西万博きょうと基本構想」の趣旨に合致している取組
- ・ 万博を契機とした新たな取組
- ・ 万博に向けた機運醸成の取組や万博期間中に万博会場から府内各地に人を呼び込む取組

<認証例>

■ 機運醸成の取組

- ー 子供の万博への関心を高めるためのワークショップの開催
- ー 万博1年前に向けた社屋や施設、工場等のカウントダウンライトアップ

■ 万博会場から府内各地に人を呼び込む取組

- ー 万博のナショナルデーに合わせた民族音楽コンサートの開催
- ー 少数言語に対応したボランティアガイドの育成や観光マップづくり
- ー 万博参加国の激辛料理を集めたフードフェアの開催

認証のメリット

- 「大阪・関西万博きょうとアクションプラン」に掲載し、推進委員会の参加団体が実施する取組と一体的に推進
- 今後立ち上げ予定のポータルサイト等を通じて、認証した取組を掲載し、広く発信